

「いきいきと学びをつくる子どもの育成」 ～算数科を通して、考える力を育む授業づくり～

I 研究内容

1 研究内容

- (1) 基礎学力を身につける指導の工夫
 - ・朝学習の充実
 - ・家庭学習の習慣化（「松小☆かがやきノート」の継続）
 - ・新しい知識や技能の定着（視覚的 ポイント）
 - ・ICT機器の活用（タブレットなど）
- (2) 学びを作る指導の工夫
 - ・自分の考えをもつ場面設定や活動
 - ・具体的な操作活動や体験的な活動
 - ・絵や図、言葉や式を用いて考える活動
 - ・伝え合う活動
 - ・授業の構造化・板書の工夫・ノート指導
 - ・アクティブラーニングの視点
- (3) 学びを支える取組（「確かな学力」育成プロジェクト）
 - ・学習環境の整備（学習規律 生活習慣）
 - ・集団作り（Q-Uテストの分析 児童の実態把握→学級づくり）
 - ・意識調査（子どもの意識や変容を知る→児童理解と研究の検証）

2 研究方法

- (1) 算数科でめざす確かな学力についての研修
 - ・講師を招いての理論研修
 - ・授業研究会への参加（「確かな学力」育成プロジェクト）
- (2) 授業研究
- (3) 一人一実践

3 具体的な取組

- (1) 基礎学力部会の具体的な取組
 - ア【朝学習の取組について】・・・基礎学力の定着を目指して
 - 朝学習のローテーションと内容
 - 月・火・木・・・算数（数と計算領域・四則計算等の習熟を重点に）
 - 水・・・読書
 - 金・・・国語（漢字の定着を重点）
 - 百マス計算・・・マスの量は学年に応じてプリントを用意
 - 朝学プリント用リンク集の活用・・・学年の実態に応じて活用
 - イ【家庭学習の習慣化について】・・・内容と質の高まりを目指して
 - 「松小☆かがやきノート」の継続・・・正面玄関に各学年ごとに掲示
 - ・学習内容、ノートの使い方・書き方等、頑張ってきた児童のノートを紹介
 - ・PDFに取って→松小☆かがやきノート掲示用
 - 学びの甲斐善八箇条・・・各学級と玄関に掲示
 - ・家庭学習の目的の確認・・・自分の意志で学習に向かう習慣づけ
 - 毎月8のつく日の「家庭学習ふり返りの日」では、家庭とともに自主学習をふり返る。
 - 学年に応じて、自主学習カードや自学ノートで意識化を図る。
 - 児童の意欲付けとして、児童会のあいさつ習慣の週に担当日と合わせて校長先生、教頭先生、教務主任の先生などに見ていただく。
 - （月→5年 火→4年 水→3年 木→2年 金→6年と1年）
 - ウ【既習学習の定着について】
 - 算数の学習まとめの掲示（廊下や教室）
 - 算数の既習事項「ふりかえりカード」作成

(2) 授業作り部会の具体的な取り組み

○学びをつくる指導の工夫

- ・既習内容を生かして、自分の考えをもつ場面設定や活動
- ・具体物の操作・体験的な活動、生活場面との関連づけ等、思考するための手立ての工夫
- ・考えを表現するための手立ての工夫
- ・多様な解決方法を見いだすための対話的な学びの設定
- ・絵や図、言葉や式を用いて考える活動
- ・授業の構造化
- ・基礎学力部会との連携（基礎学力の定着・ICT機器の有効活用）

4 具体的実践

(1) 学習会

6月「考える力を育むための効果的な支援について」

講師 峡東教育事務所 久保田英樹 主幹指導主事

12月「テレビ会議システムやネットワークで結んだエデュタブの使い方」

講師 生涯学習課 青少年カウンセラー 田辺 康仁先生

(2) 実態調査

5月 算数の学習アンケート1回目実施

12月 算数の学習アンケート2回目実施

(3) 授業実践

ア 研究授業

・第4学年 辻 毅 教諭 算数科「面積のはかり方と表し方」

イ 授業公開（一人一実践）

- ・第1学年 平山 沙織 教諭 算数科「ひき算」
- ・第2学年 高石 圭子 教諭 算数科「千より大きい数をしらべよう」
- ・第3学年 金子佐由美 教諭 算数科「かけ算のしかたを考えよう」
- ・第5学年 中村 悦子 教諭 算数科「面積の求め方考えよう」
- ・第6学年 岩下 和子 教諭 算数科「速さの表し方考えよう」

II 成果と課題

1 成果

- (1) 講師を招いての理論研究は、主題に対する理解が深まり、今年度の研究の方向性を確認することができた。一年間、同じ方向を向いて研究ができた。
- (2) 「基礎学力部会」「学びづくり部会」が機能的に働き、研究を両面から支えた
- (3) 考える過程を大切にし、考える力を育む授業をこの一年間意識して取り組んできたことで、子どもたちが自ら考え、自分たちで学びをつくらうとする姿が見られた。
- (4) 授業者がそれぞれ研究内容を意識した授業展開を図り、検証授業として生かされる内容で、日々の実践に役立てることができた。
- (5) 研究授業や実践授業は課題を検証し、研究を深めることができた。今年度の成果を子どもの変容で感じることができた。
- (6) 意識調査をすることで実態が分かり、研究の進め方を見いだすことができた。また、成果を見取ることもできた。

課題

- (1) 「学びをつくる」手立てをさらに具体的に考えていきたい。
- (2) 各学年の学びを途切れることなく積み重ねていくためには、構造化された授業の方法など、今年度の成果を来年度も意識し、日頃の授業実践で継続して取り組むことが大切である。
- (3) 考えを持たせるためのより有効的な手立てや主体的で対話的な学びへのより具体的な取組について研究していきたい。
- (4) 家庭学習の充実を図るために、さらに家庭へ働きかけ、連携を深めたい。

III 成果物

- 1 研究授業指導案・実践授業指導案 6点
- 2 算数の学習アンケート結果（2回の意識調査と分析）
- 3 既習事項「ふりかえりカード」

（研究主任 高石圭子）